横浜市立 浅間台小学校　　学校評価報告書　　（平成28～30年度）

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①課題解決的な学習を意識し、話し合いの目的をもって自ら解決しようとする主体的な学びをつくる。②表現力やコミュニケーション能力の向上をめざし、交流場面を意図的・計画的に設定する。③語彙指導：活用しやすいように、語彙表の枠を学習指導部より提示する。	①取組が国語の研究のままになっていた。②各学級意識して取り組むことができていた。継続して取り組んでいく。③国語で学習した内容を進んで活用できなかった。	B
豊かな心	①たてわり活動において学年ごとにめあてを設定し、振り返りをし達成感が味わえるようにする。②ペア学年の交流の時間を行事や教科の中で効果的に設けていく。③子どものモデルになるように教師が率先して場に応じたあいさつをする。④あいさつについて日常的に学級指導する。⑤年間2回あいさつ活動を実施する。	①学年ごとのめあてを設定し継続して意識して指導したり、活動の振り返りのしかたを工夫する必要がある。②学年によっては、ペア学年に限らず計画的に交流をしているところもある。学年によってばらつきがある。③年2回のあいさつ活動を実施した。児童自身が考えて意識できるようにすることが必要だった。	B
健やかな体	①「早寝・早起き・朝ご飯」を子どもたちに啓発すると共に、学校説明会や懇談会などで保護者にも協力を呼びかける。②健康カレンダーを活用する。③「なわとび活動」を全校で取り組む回数や場面を設定し、それに向けて取り組めるようにする。	①効果的ではなかった。保護者の意識を変えることも必要。②今年度からは、歯みがきカードを活用した。③委員会の児童は、準備し活動している。毎回の内容を具体的に示す。	B
教育課程 学習指導	①マイ辞書（3年生以上）を活用する。　・中学年…辞書のひき方（国語中心）・高学年…他教科でも活用できるようにする。・保管方法の共通理解を図る。②ノート指導：書き方は完全に統一するのではなく、必ず書くこと（日付や課題など）を学年で検討、確認する。③栽培計画を年度当初に立て、学年ごとに「大地の会」の方と連携して取り組む。	①文章を書く際に使用するようになったが個人差があった。 全体的な日常化にはまだ至っていない。②自分の考えを書ける子、友達の考えを書ける子など、個人差がある。③「大地の会」の方と連携しながら学年ごとに計画に沿って栽培活動に取り組めた。学校全体としての栽培計画ができればよりよい活動になる。	A
児童生徒 指導	①「浅間台スタンダード」と月別生活目標（4月、10月、3月）とを関連づけて指導する。②「浅間台スタンダード」のよさが子どもに伝わるように指導する。③いじめ防止アンケートを年2回実施して実態把握に努めると共に、早期発見→対応を組織的に行えるようにする。④アンケート実施後に「いじめ防止対策委員会」を設定する。	①②10月にスタンダードの確認、現状の改善すべき事項を発信したが、あまり徹底していなかった。今後も継続する。②いじめの定義についての共通認識を図り、早期発見につなげていくことができた。④随時、実施したが発信が専任からのものに限られたため、担任から発信できることの共通認識が必要。	B
地域連携	①学校Webページの充実を図るため、学年ページ等の更新を、期日・回数を決めて継続的に取り組む。②総合をはじめとした材の記録を参考にし、取り組んだことを残していく。活動内容、連絡先、招待状などの送付先の記録を一括管理できるようにする。	①更新のタイミングが曖昧で各学年任せになってしまった。ルールを決めて一斉に更新することを基本とする。②関係先との連絡などの記録は、個々の部署や学年では管理できているが、一括管理はできていなかった。ネットワーク上で一括管理する。	A
人材育成・ 組織運営	①各事業、および業務全般において実務推進の主体となるミドルリーダーをサポートするという認識のもとに、職員が協働していくという意識の定着を図る。②学校、ブロック、学年のいずれの単位、あるいは個人での取組により効率化が図れるかを適切に選択し、業務に臨む。	①業務ごとにミドルリーダーが見通しをもって推進していた。「ミドルリーダーが推進、チームでサポート」という体制について更なる周知が必要。②学校裁量の時間を徐々に減らし、個人の判断で活用できる個人裁量の時間の確保ができた。	B

ブロック内相互評価後の気付き	・小中児童生徒の情報交換を行える機会が日常的にも増えてきた。協調して課題解決できる機会を検討したい。 ・まちの教育座談会等、同じテーマの下に児童・生徒が直接交流できる機会は貴重であり、より価値のある活動として内容を吟味・改善させていく必要を感じる。 ・中学3年生の自己肯定感という報告から、まちとして小学校での活動が継続し、よい影響を及ぼしているのではないかという評価を受けた。その内容の分析から、活動の質を高めていきたい。
学校関係者評価	・開かれた学校という感じを受けている。 ・自主性をもって活動している。朝の草むしり、水やりなど、自分たちで計画的に行っている様子が見られる。教師から準備についての事前の相談もありコラボレートできている。 ・情報収集をして、発表の機会を与えることが意欲づけになる。ディベートの力のさらなる向上を。 ・達成感を味わうためには、一つひとつの取組を確実に達成していく力という視点も重要。活動に反映できるか検討してほしい。
学校経営中期取組目標振り返り	・各分野において継続した目標を設定し、評価改善しながら推進しているが、推進母体となる分掌からの働きかけが十分でない。段階的なオペレーションの道筋を明確にし、確実に遂行できるよう組織系統の見直しを検討したい。 ・地域との結びつきは強いが、保護者への情報発信や協力要請という面での改善が求められる。 ・行事の目標の中に、表現力やコミュニケーション能力の向上という価値を焦点化させたことにより、その点での育ちを認知できている。自己肯定感を獲得させるために、今後も継続させていきたい。

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①道徳の目標を中心に校内研究を進めていく。A、B、C、Dの内容項目に沿って目標を決める。②表現力、コミュニケーション能力の向上についてはどの教科、領域でも継続していく。③気持ちを表す言葉や行動を考える際、国語の語彙表を活用するようにする。	①道徳を中心に研究を進めることができた。特に各学級が授業研究会を行えたことで、授業に自信がついた。②③語彙表の活用などをすることで表現力を高めたり、話し合い活動を取り入れコミュニケーション能力の高めたりした。	B
豊かな心	①たてわり活動では学年ごとのめあてを設定することで意識化していく。②他学年と交流できる時間や行事を年間学習計画に記入し、効果的に交流の時間を設ける。③年度はじめに道徳の学習で「あいさつ」の内容について重点的に指導する。④道徳教育推進校としての研究成果を日々の実践に反映させ、評価改善しつつ効果が生まれるように努める。	①たてわりカードにより、各学年のめあてを意識しその達成に向け活動することができた。②計画的にバディ学年やペア学年の交流に取り組み、自己肯定感や自己有用感を高めた。②③学校教育目標と道徳教育を関連させたことで、日々の実践と結び付けることがで	A
健やかな体	①全学年のそろう懇談会（9月）に、保護者に資料（学状）を提示し、啓発する。②健康ファイルを各自持たせる。6年間活用する。歯の健康について考え、正しい歯みがきの習慣を身につけ自分の変容が分かるように、記録を残しておく。③月の具体内容を示し、最終回に記録をとる。マラソン活動も同じく記録を残す。	①年間計画を提示し、啓発した。②歯科学校との連携や児童会を活用し歯についての健康に計画的に取り組み成果をあげた。健康ファイルに記録を残し意識が高まった。③マラソン活動については、取り組みが十分ではなかった。	B
教育課程 学習指導	①辞書の活用方法や保管方法については、年度初めに学級で確認する。②「算数マイノートをつくろう」のページをスキャンし、データ化しておく。年度初めに前学年の内容を把握し、どの学年のノートも見て活用できるようにする。③「大地の会」と連携しながら学校全体としての栽培活動を考え、学校全体として栽培活動を利用することを吟味していく。	①確認した。②ノートの活用については、各学年で工夫した取り組みが見られたが、学校で共通した活用方法を考えていくのは次年度の課題といえる。③大地の会と十分に連携を図れた。栽培活動と食を結び付ける第一歩の活動を行うことができたのは大きな成果といえる。	B
児童指導	①②「浅間台スタンダード」と月別生活目標（4月、10月、3月）とを関連づけて指導する。「浅間台スタンダード」のよさが子どもに伝わるように指導する。③いじめ防止アンケートを年2回実施して実態把握に努めると共に、早期発見→対応を組織的に行えるようにする。③アンケート実施後に「いじめ防止対策委員会」を設定する。	①②浅間台スタンダードと生活目標を関連付けて指導した。年度初めにスタンダードについて共通理解を図るとより児童指導が充実する。③いじめ防止アンケートは1回であったが組織的に取り組み早期発見・対応ができた。④「いじめ防止対策委員会」を開催し全体で問題を共有し未然防止に取り組むことがで	B
地域連携	①学年だよりの発行に合わせて、更新する。②行事、学習活動で交流した連絡先を、入力するフォルダを作り、活動後に入力する。	①積極的に更新した学年があった。②各学年の情報を全職員が共有し有効に活用できるように整備する。	B
いじめへの対応	①児童指導専任と担任が連絡を密にとり、子どもの実態を学級のみでなく、学年で把握し、問題があれば早期に学年、専任で対応する。②児童のことについて、学校全体で共通理解を図り、学校全体で児童方針を共有する。③保護者との連絡を必要に応じていつでもとれるようにする。	①児童指導専任を中心に学年、学校全体でいじめにつながりそうな事案の段階で子どもたちを指導できた。②月１回以上共通理解を図る時間を設け、方針を共有することができた。③保護者との連絡を必要に応じでとり、子どもに合わせ丁寧に対応している。	A
人材育成・ 組織運営	①各事業、および業務全般において実務推進の主体となるミドルリーダーをサポートするという認識のもとに、職員が協働していくという意識の定着を図る。②学校、ブロック、学年のいずれの単位、あるいは個人での取組により効率化が図れるかを適切に選択し、業務に臨む。	①実務担当が主体で校務を推進した。人材育成の観点からは、組織を改編し効果的に協働体制がとれるようにし、ミドルリーダーがサポートするよう取り組む。②効率的に業務に励んでいた。	B

ブロック内相互評価後の気付き	・より効果的に小中連携を推進するためには、まずは全教職員が顔の見える関係を構築したい。 ・教科指導や児童生徒指導は、小中が一貫したカリキュラムマネジメントに取り組む必要がある。 ・児童生徒が地域でも繋がれるよう、行事等の見直しを図りたい。 ・「主体的・対話的な深い学び」を子どもが実感できるような授業づくりについて、共同して研究を進めたい。
学校関係者評価	・ゆとりのある温かな雰囲気の中で児童が教育活動に取り組んでいる。 ・特色ある教育活動の三耕教育の取組は地域との連携のなかで進められている。目標や課題を明確にし、効果的に教育活動が推進できるとよい。 ・教師と子どものコミュニケーションが良好であり、子どもの成長がしっかりと感じられる。 ・多様化した保護者の対応や協力体制は今後の課題である。
学校経営中期取組目標振り返り	・具体的な取組についての共有が十分ではなく、学年やクラスでの取り組みとなることがあった。 ・不登校児童の解消やいじめの未然防止など、課題意識をもって教職員が連携して取り組むことができた。 ・地域の材（ひと・もの・こと）の開発と活用に今後も取り組み、子どもが主体的に学ぶ場を増やしたい。 ・教職員間のコミュニケーションを潤滑にし、情報を共有しながら協働で学校経営にあたりたい。

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①学力・学習状況調査の結果を分析し、各学年で効果的な取組を実践する。②学び合う楽しさを実感できる授業づくりを推進し、主体的に学ぶ子どもを育てる。③授業や学習環境のユニバーサル化を図り、子どもが落ち着いて学習に取り組めるようにする。	①学年で学力・学習状況調査の結果を分析し、学力の向上を目指して取り組んだ。②算数少人数や一部教科分担制を取り入れ、指導力の向上を図り、主体的に学ぶ授業づくりに取り組み成果となった。③児童が安心して学ぶ場づくりについて職員で共有し、学習環境を整えた。	B
豊かな心	①生活状況調査の結果を分析し学年経営計画に取り入れ子どもの育ちを計画的に支援する。②三耕教育の全体計画を見直し、系統性を図り段階的に子どもの育ちを支援する。③道徳教育を中心に学校教育目標の具現化を図る。また日常生活と関連させて指導し心の育成を高める。	①学年で生活状況調査の結果を分析し、効果的な教育活動を実践し成果となった。②三耕教育はPDCAを実践し、来年度につなげることができた。③人から学ぶ実践的な学びの場をつくり、見えない思いに気づく児童が増えている。また、道徳教育推進実践校として重点研究でも取り組み、日常的な心の育成を図っ	A
健やかな体	①新体力テストの結果を分析し、授業改善や一校一実践の取り組み方を工夫して体力の向上を図る。②休み時間に体育館やアスレチック広場を開放し運動する機会の充実に取り組む。③歯みがきタイムを設定し習慣化を図る。④健康ファイルに取組の様子を記録し、健康に対する意識を高める。	①一校一実践の取り組みは、継続できなかったが、リズムトレーニングや水泳指導などスポーツセンターと連携した活動を実践し成果が見られた。②アスレチック広場の改修で低学年の外遊びの機会が減少した。③④歯科保健活動が評価され、県教育委員会から「よい歯の学校」として表彰され	A
児童指導	①「浅間台スタンダード」を見直し、全職員で共通理解し、ぶれない指導を実践する。また保護者や地域との連携を図る。②児童理解研修を年度当初や学期ごとに実施し、教職員の指導の向上を図る。③少人数指導や一部教科担任制を実施し、児童理解に努める。	①配慮を要する児童に寄り添った指導や一般の児童にも公平な指導を徹底し、信頼関係を築き、成果を上げた。②計画的な研修とともに必要に応じた研修を迅速に実施し、ぶれない指導を実践できた。③教育活動を通して多くの目で多角的に児童を理解し指導に活かすことができた。	A
地域連携	①地域行事や地域連携行事に、多くの子どもが参加できるよう、学校のサポート体制を工夫するとともに地域の一員であることを実感できるようにする。②地域の材を活用した三耕教育に取り組み、社会に開かれた教育課程を推進する。③学校の経営方針を共有し、連携を図るため学校だよりやホームページを充実させる。	①地域行事等に参加する機会を児童に提供し、多くの職員が参加した。開かれた学校づくりを推進したが休日の児童の参加体制は、保護者の意識を高める必要がある。②各学年で地域の材を活用した三耕教育に取り組んだ。③ホームページの更新は、設備環境が整わず充実させることができなかった。	B
特別支援教育	①支援が必要な児童理解と共有化を図り、学ぶ環境を整える。②地域療育等のセンター的機能を活用し連携しながら、個別の支援計画を作成し有効な支援を実践する。③学習ルールが習慣化できるよう、学校内外の人材を計画的に配置し支援する。	①毎月の児童理解研修での児童理解の共有やステップアップ教室・国際教室の取組により誰もが学べる環境を整え成果を上げた。②地域療育センター等の関連機関と積極的に連携し、児童の困り感に寄り添った効果的な指導が実践できた。③支援員やATなどの人材を活用し、個に	A
いじめへの対応	①「いじめ防止対策委員会」を月1回以上定期的に開催し情報を共有する。②児童理解に努め、全教職員で児童を見守り、組織で対応する。③外部関係機関と連携し早期発見、早期対応する。④年2回のアンケートを実施し、いじめを早期に認知し、未然防止に取り組む。	①②全教職員で見守る体制が整い、いじめ事案の未然防止や早期発見に努め、迅速な対応ができた。③外部機関との定期的な連絡体制が構築できた。④児童の意識も高まり、未然防止に努めることができた。	A
人材育成・ 組織運営	①業務の負担軽減や若手の人材育成を目指し、組織の改編を行い、チームで計画・運営する。②5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、学び続ける職員を育成する。③講師を招いた校内研修を充実させるとともに外部の研究発表や研修会への参加体制を整える。	①業務負担軽減については、職員の意識改革も必要である。②メンター研修は、計画的に取り組み成果を上げた。③講師からの助言は、大いに力となり職員の励みにもなった。	B

ブロック内相互評価後の気付き	・小学校2校のそれぞれの特色ある教育活動の取組は、2校が進学する中学校の学びを支えているとの意見があり、継続するとともに他を受け入れる柔軟な思考力の育成を図っていきたい。 ・街の教育育座談会の運営の方策が進化し、子どもがまちの一員として何ができるかを考える主体的な学びとなった。 ・5年未満の教員が半数を占める現実があり、早急に効果的な人材育成を図らねばならない。
学校関係者評価	・教師の本気が、児童の学びに直結している。「あいさつ」が日常化するようになった。 ・子どもの興味や関心が高まっている。授業の中でそのような取組が積極的になされているのだと感じる。 ・様々な特性をもった子どもが在籍しているが、基本となる善い行いはしっかりと認めてほしい。 ・教職員が同じ方向を向いて教育活動に取り組み、それがよい成果となって子どもの成長を育んでいる。
学校経営中期取組目標振り返り	・特別支援教室や一部教科分担制、専科指導など、どの子も安心して学ぶ学校を目指して取り組み、成果を上げることができた。またこれにより学年を核としたチームとしての学校経営が推進できた。 ・今後、経験の浅い教職員の増加する中で、発達に偏りのある児童への支援や多様な価値感をもった保護者対応など困難な状況も予想される。自ら考え自分の未来を創造する力を蓄えられるよう、多くの意見を聞きながら、しっかりと地固めをして教育活動に邁進したい。